ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

PRESS RELEASE

2019 年 12 月 1 日　配信資料

［本リリース発信元］ ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）　広報担当：松本、長野

ロームシアター京都 2019 年度自主事業［舞踊］

《レパートリーの創造》
ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ
「ショールームダミーズ#4」

2020 年 2 月 8 日（土）19:00 開演、9 日（日）15:00 開演
ロームシアター京都　サウスホール

欲望と破滅、美と退廃、生と死―。
世界各地で議論を巻き起こす異才ジゼル・ヴィエンヌが
初期代表作を再創造（リ・クリエーション）！

自ら製作した人形を用い、美しくも不穏な予感に満ちた物語世界を構築するジゼル・ヴィエンヌ。暴力や性をめぐるさまざまなタブーを取り上げつつ、生と死、欲望と破滅、秩序と荒廃といった両極の美学を探求するその作品は、アヴィニヨン演劇祭をはじめ世界各地の芸術祭、劇場で、賛否両論を巻き起こしてきた。
今回、ロームシアター京都であらたに制作されるのは、エティエンヌ・ビドー＝レイとの共作で 2001 年に初演された『ショールームダミーズ』の最新版。マゾッホの小説『毛皮を着たヴィーナス』をモチーフにした本作は、マネキンとダンサーが共存する空間で、規範と欲望、快楽の関係を紐解こうとするもの。今回ははじめて出演者を女性に限定し、ステレオタイプの“男女”から離れた、より自由な眼差しでクリエーションに臨む。
生命を持たない“あるがまま”のマネキンに対し、社会の中で互いに関係することを求められる“生身”の人間たち。彼女らが舞台上で繰り広げる物語は、観る者を思わぬ深淵へと誘うだろう。

■公演概要

公演名：レパートリーの創造
ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー=レイ
「ショールームダミーズ#4」
日時：2020 年 2 月 8 日（土）19:00 開演／9 日（日）15:00 開演★
★終演後アーティストによるトークあり
上演時間：約 90 分（休憩なし）
会場：ロームシアター京都 サウスホール

演出・振付・舞台美術：ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー=レイ
出演：朝倉千恵子、大石紗基子、高瀬瑶子、花島令、藤田彩佳、堀内恵
音楽：ピーター・レーバーグ
照明：アルノー・ラヴィッセ、パトリック・リウー

【チケット料金】
一般 4,000 円、ユース（25 歳以下）2,000 円［発売中］

【チケット取扱】
■オンラインチケット［24 時間購入可］ ※要事前登録（無料）
https://www.e-get.jp/kyoto/pt/
■ロームシアター京都 チケットカウンター
TEL.075-746-3201 （窓口・電話とも 10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）
■京都コンサートホール チケットカウンター
TEL.075-711-3231
（窓口・電話とも 10:00～17:00／第 1・3 月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

公演に関する問合せ先：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演特設サイト https://rohmtheatrekyoto.jp/lp/srd4/

■レパートリーの創造について

ロームシアター京都が、2017 年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレパートリー演目として時代を超えて末永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトゥルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパートリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。

■「ショールームダミーズ」“Showroomdummies” について

マゾッホの『毛皮を着たヴィーナス』をモチーフに、2001 年の初演から現在に至るまで、幾度も再創作を繰り返しながら変化を続けるジゼル・ヴィエンヌの出世作。本作でヴィエンヌは、エティエンヌ・ビドー＝レイと共に演出・振付・舞台美術を担当。５人のダンサーと１人のシンガー、そして複数の人形によって構成される舞台は、生きている身体とそうでないもの、現実と表象の境界が、ヴィエンヌ独自の視点から模索されている。日本では、2014 年に第 3 バージョンにあたる『Showroomdummies # 3（邦題「マネキンに恋して―ショールーム・ダミーズ―」)』が、ふじのくに⇄せかい演劇祭で上演されている。

■ジゼル・ヴィエンヌが振付・演出を手がけた主な作品

【エティエンヌ・ビドー＝レイと共同】
ジャン・ジュネ作『Splendid’s』(2000)、『Showroomdummies』(2001)、『STEREOTYPIE』（2003）、『Tranen Veinzen』（2004）、『Showroomdummies#2』（2009）、『Showroomdummies#3』（2014）など

【ジゼル・ヴィエンヌ単独】
『I Apologize』（2004)、『Une belle enfant blonde/A young, beautiful blonde girl』（2005/アヴィニョン演劇祭)、『Kindertotenlieder』（2007)、舞台作品『Jerk』（2008)、『Eternelle Idole』（2009）など

【京都でも上演された作品】
デニス・クーパーとの共作『The Ventriloquists Convention（邦題「腹話術師たち、口角泡を飛ばす」)』（2015 フランス初演/2017 京都芸術劇場 春秋座)、『This Is How You Will Disappear（邦題「こうしておまえは消え去る」)』（2010 フランス初演/ KYOTO EXPERIMENT2010)、『Crowd』（2017 初演/KYOTO EXPERIMENT2018）など

■コラム「光輝な美しさと暗黒のオブセッション―ジゼル・ヴィエンヌの世界」（演劇研究者・演劇批評家：岩城京子）より一部抜粋

「闇の美学をつらぬき演出家、振付家、人形作家、美術家として活躍するジゼル・ヴィエンヌ。その特異な作家性は、彼女が生まれた環境により決定的に育まれた」…。

「儚さと暴虐さ、美しさと残酷さ。光輝く美しさと暗黒のオブセッションが併置されるヴィエンヌの作品では、いわば「感情のエクストリームスポーツ」のように際から際まで感情が揺さぶられていく」…。

「人間と人形を舞台上に並べることで、ヴィエンヌは無数の哲学的問いを観るものに投げかけていく。果たして現実／仮想、人間／人形、能動性／受動性の境界線はどこにあるのか？」…。

続きは、公演特設 WEB サイトへ
https://rohmtheatrekyoto.jp/program/archives/srd/column/column-1/

■プロフィール

[演出・振付・舞台美術]

ジゼル・ヴィエンヌ　Gisèle Vienne

1976 年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、パフォーマー、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2007 年秋にはヴィラ九条山の招聘芸術家として 5 ヶ月間京都に滞在。2018 年には、KYOTO EXPERIMENT で鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。

エティエンヌ・ビドー＝レイ　Etienne Bideau-Rey

1975 年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000 年にマルセル・ブルースティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。最初の舞台作品をジゼル・ ヴィエンヌと共に手掛ける。

［出演］

朝倉千恵子　Chieko Asakura

東京藝術大学大学院卒業。2014 年よりパフォーマンスの制作を始める。現在、俳優としてフリーランスで関東を拠点に活動中。2017 年、MEDIA PRACTICE16-17 にて『日々淡々とその日にそなえる』『そのあとふりかえる、わたし、別のわたし、別のだれか』を発表。2017 年よりチェルフィッチュ『三月の 5 日間 リクリエーション』に参加。2019 年、MEDIA PRACTICE18-19 にて『流れうつるわたしの複数』を発表。

大石紗基子　Sakiko Oishi

5 歳よりバレエを始める。2005 年、フランス、マルセイユ国立バレエ学校に入学し、首席で卒業。2006 年、Cellule d'Insertion Professionnelle に所属し、マルセイユバレエ団や Ballet D'Europe で経験を積む。2009 年、CCN Ballet De Lorraine (ロレーヌバレエ団)に入団。その後ウィリアム・フォーサイス、トワイラ・サープ、マース・カニンガム、ジゼル・ヴィエンヌ、マーサ・グレアムなど多種多様な振付家の作品を踊る。現在はフリーランスダンサーとしてフランスを拠点に多数のプロジェクトに参加している。

高瀬瑶子　Yoko Takase

幼少よりモダンバレエを始め、後に橘バレエ学校にてクラシックバレエを学ぶ。Austria Ballet Company-Tokyo を経て、現在は骨で動ける身体を探し、コンテンポラリーダンサーとして関西を拠点に活動中。こうべ全国洋舞コンクールモダンダンス部門 1 位受賞。青木尚哉、中村恩恵、近藤良平等の作品に出演。自作自演も発表する傍ら、白井晃演出、森山開次振付『Lost Memory Theatre』『夢の劇』、CM 等に出演し、踊りを通して演劇やメディア活動での表現も探求している。

花島 令　Rei Hanashima

NY、カナダ、ヨーロッパなどでトレーニングを積み、2012 年に英国 Rambert School を卒業。カンパニーデラシネラ、印象派、NODA・MAP、I COULD NEVER BE A DANCER ほか多数の作品に出演。舞台だけではなく大学や美術館、世界遺産でのパフォーマンスのほかに、海外フェスティバルに招聘されるなど幅広く活動。現在フリーランスとして関東を拠点に活動中。PV・映画、舞台等の振付も行う。

藤田彩佳　Ayaka Fujita

5 歳よりバレエを始める。法村友井バレエ学校で法村牧緒らに師事。高校卒業後にスイスのルードラベジャールバレエ学校に入学しクラシックバレエや、グラハムテクニックをミシェルガスカールらに師事。卒業後ポルトガルの kale companhia de danca に入団。退団後 Noism 準メンバーとして活動。現在フリーランスとして関西を拠点に活動中。

堀内 恵　Megumi Horiuchi

大阪ダンス&アクターズ専門学校卒業。2 年間ニューヨークに留学。日本に帰国後、ニューヨークで学んだモダンダンス、コンテンポラリーダンスをベースに自分のスタイルを追求している。現在フリーランスとして関西を拠点に活動中。また、フィルムカメラで自身が撮影した写真の展示活動も行っている。

［本リリースに関するお問合せ先］
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 広報担当：松本、長野
電話：075-771-6051（9:00～17:00） FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekyoto.jp